

発掘調査プロジェクトの背景と経緯

イスラエルにおける日本隊の発掘調査は、欧米各国には遅れるが、1964年～1966年、日本オリエント学会が組織した西アジア遺跡発掘調査団（団長・大島清東京大学教授）が、テル・ゼロール遺跡の発掘調査をおこなったのに始まり、以降、故モシェ・コハヴィ先生（テル・アヴィブ大学名誉教授、2008年2月他界）をはじめとした現地の研究者との長期的な交流や協力関係が継続している。1990年からは、コハヴィ先生の呼びかけに応じて、天理大学や立教大学の関係者が中心となって、ガリラヤ湖畔のエン・ゲヴ遺跡の発掘調査が行われ、中断をはさみつつ、2004年まで調査を継続した。

2003年8月、エン・ゲヴ遺跡の発掘調査が終盤にさしかかる中、現場を視察に現れたコハヴィ先生が日本隊による新しい調査候補地として我々に示唆したのが、テル・レヘシュ遺跡だった。翌2004年3月には、コハヴィ先生自らが案内して、緑に覆われたのどかなテル・レヘシュ遺跡の見学をおこない、遺跡近くのキブツ・エンドールにある考古学博物館で、学芸員のアーモン・カルメラ氏をわれわれに紹介し、発掘調査の基地となるキブツとの接点をつくってくださった。さらに2005年夏、エンドール考古学博物館でテル・レヘシュの出土資料の予備調査を行った際も、エルサレムのイスラエル考古局にわれわれと同行し、担当者に日本隊がテル・レヘシュの発掘調査プロジェクトをおこなう学問的・国際的意義を力説してくださった。

その結果、天理大学としてテル・レヘシュ遺跡の発掘調査ライセンスを取得することができ、2006年に始まった発掘調査は2010年まで6期にわたって継続し、本冊子でその一端を紹介するような大きな成果が導かれてきた。これまでに行われたテル・レヘシュ遺跡の発掘調査は下記のとおりである（桑原）。



2005年に来日したモシェ・コハヴィ名誉教授と金関恕・天理大学名誉教授



初めて訪れたテル・レヘシュ遺跡（2004年3月）



テル・レヘシュ発掘調査の鉄入れ式（2006年3月）

第1次発掘調査	2006年3月16日～3月29日
第2次発掘調査	2007年3月10日～3月29日
第3次発掘調査	2007年8月5日～8月31日
第4次発掘調査	2008年8月3日～8月29日
第5次発掘調査	2009年7月31日～8月30日
第6次発掘調査	2010年7月26日～8月29日